

Japan
Food
Research
Laboratories

第 13042632001-01 号 page 1/4
2013年(平成25年)07月15日

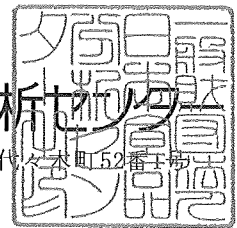
試験報告書

依頼者 株式会社 ESCO
株式会社 クォードコーポレーション

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木1-52番1号



検体 エスコカンファ水

表題 除菌効果試験

2013年(平成25年)06月05日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

除菌効果試験

1 依頼者

株式会社 ESCO

株式会社 クォードコーポレーション

2 検体

エスコカンファ水

3 試験目的

検体の微生物に対する除菌効果を試験する。

4 試験概要

検体に大腸菌，黄色ブドウ球菌又は白癬菌の菌液を接種後(以下「試験液」という。)，室温で保存し，15及び90秒後に試験液中の生菌数を測定した。

なお，あらかじめ予備試験を行い，生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお，試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより，検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)		
		開始時*	15秒後	90秒後
大腸菌	検 体	6.8×10^5	<10	<10
	対 照	6.8×10^5	—	6.4×10^5
黄色ブドウ球菌	検 体	5.0×10^5	<10	<10
	対 照	5.0×10^5	—	5.1×10^5
白癬菌	検 体	4.6×10^5	<10	<10
	対 照	4.6×10^5	—	3.8×10^5

<10：検出せず

対照：精製水(黄色ブドウ球菌は生理食塩水)

保存温度：室温

—：実施せず

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

- ① *Escherichia coli* NBRC 3972(大腸菌)
- ② *Staphylococcus aureus* subsp. *aureus* NBRC 12732(黄色ブドウ球菌)
- ③ *Trichophyton rubrum* TIMM 2659(白癬菌)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

試験菌①及び②

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法，35 °C ± 1 °C，2日間培養

試験菌③

GPLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法，25 °C ± 1 °C，7日間培養

3) 試験菌液の調製

試験菌①及び②

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で $35\text{ }^{\circ}\text{C}\pm 1\text{ }^{\circ}\text{C}$ 、18～24時間培養した後、精製水(試験菌②は生理食塩水)に浮遊させ、菌数が $10^7\sim 10^8/\text{mL}$ となるように調製し、試験菌液とした。

試験菌③

試験菌をPotato Dextrose Agar(Difco)で $25\text{ }^{\circ}\text{C}\pm 1\text{ }^{\circ}\text{C}$ 、10～14日間培養した後、胞子を0.005 %スルホコハク酸ジオクチルナトリウム溶液に浮遊させ、不織布フィルターでろ過後、菌数が $10^7\sim 10^8/\text{mL}$ となるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mLに試験菌液を0.1 mL接種し、試験液とした。室温で保存し、15及び90秒後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお、対照として、精製水(試験菌②は生理食塩水)を用いて同様に試験し、開始時及び90秒後に生菌数を測定した。

以 上